

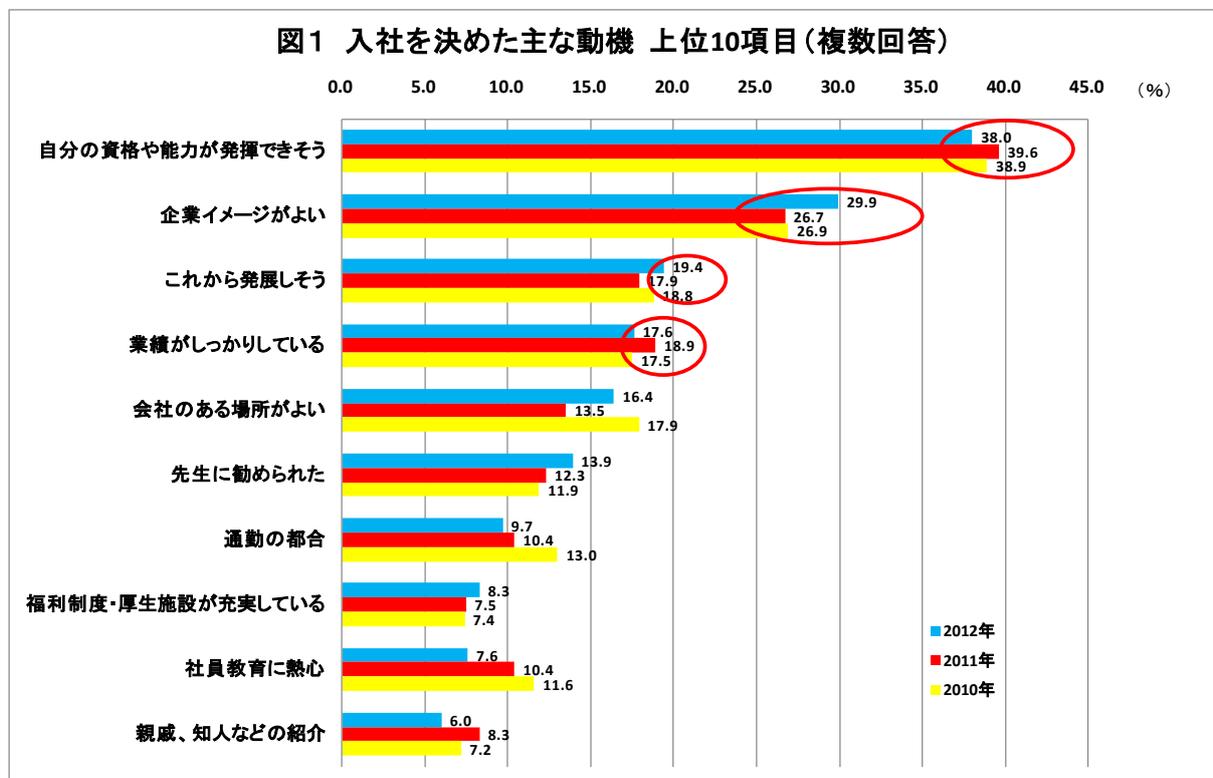
「2012年新入社員意識調査」より

「協調性・意欲・やる気は増加、責任感・社交性は減少」

東日本大震災に端を発した電力供給不安や、欧州債務問題など企業を取り巻く環境は依然厳しさを増している。そのなかで、厳しい就職活動を終え、県内でも多くの新入社員が社会人生活の第一歩を踏み出している。当社では毎年3月から4月にかけて、県内企業の新入社員を対象にアンケート調査を実施している。今年の調査結果（有効回答数 673名、うち男性 359名、女性 314名）から、今年の新入社員の意識を探ってみたい。

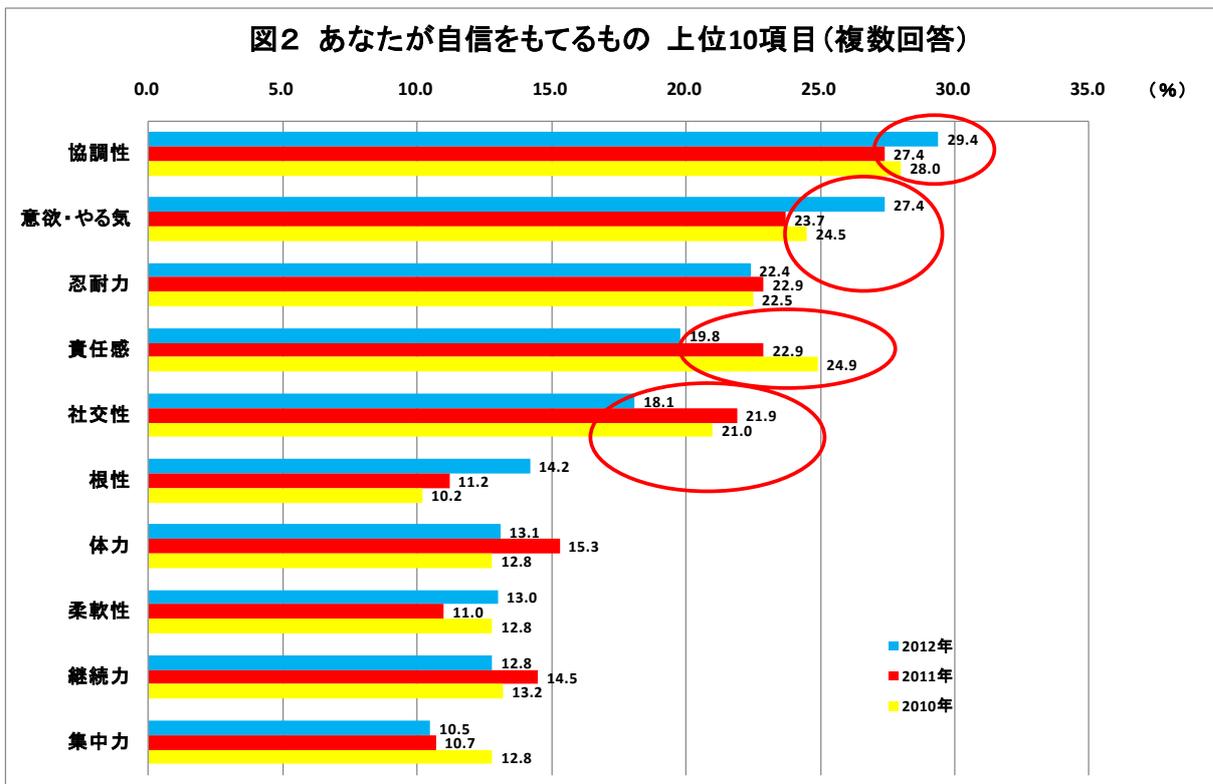
入社の一動機としては、「自分の資格や能力が発揮できる」が4年連続トップに

『入社を決めた主な理由は何か』（複数回答）との問いには（図1）、「自分の資格や能力が発揮できそう」（38.0%）が今年も最も多かった。次に、「企業イメージが良い」（29.9%）、「これから発展しそう」（19.4%）が続いた。昨年に引き続き、新入社員は自分の能力が存分に発揮でき、かつ、イメージの良い企業を選び、入社を決めているようだ。



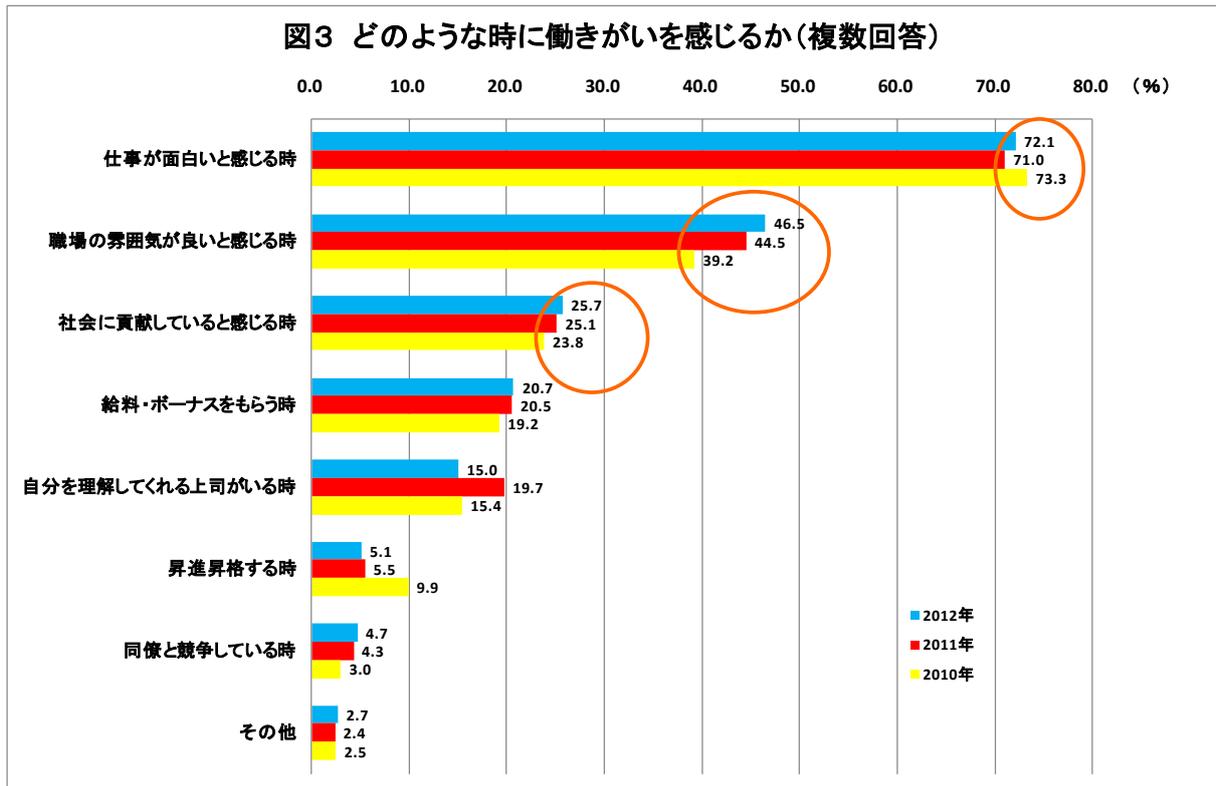
「協調性」は増加し、「責任感」が減少

『社会人として必要なもののうち、あなたが自信を持てるもの』（複数回答）との問いには（図2）、「協調性」が29.4%で最も多く、次いで「意欲・やる気」（27.4%）、「忍耐力」（22.4%）となった。今年の新入社員は、震災後に強く意識されるようになった「絆」という言葉の影響からか、職場内のチームワークを意識する傾向があるようだ。一方、「責任感」（22.9%→19.8%）、「社交性」（21.9%→18.1%）は昨年より減少した。リーダーシップを発揮することに尻込みし、仕事以外での職場のつきあいが苦手な消極的な面もあるようだ。



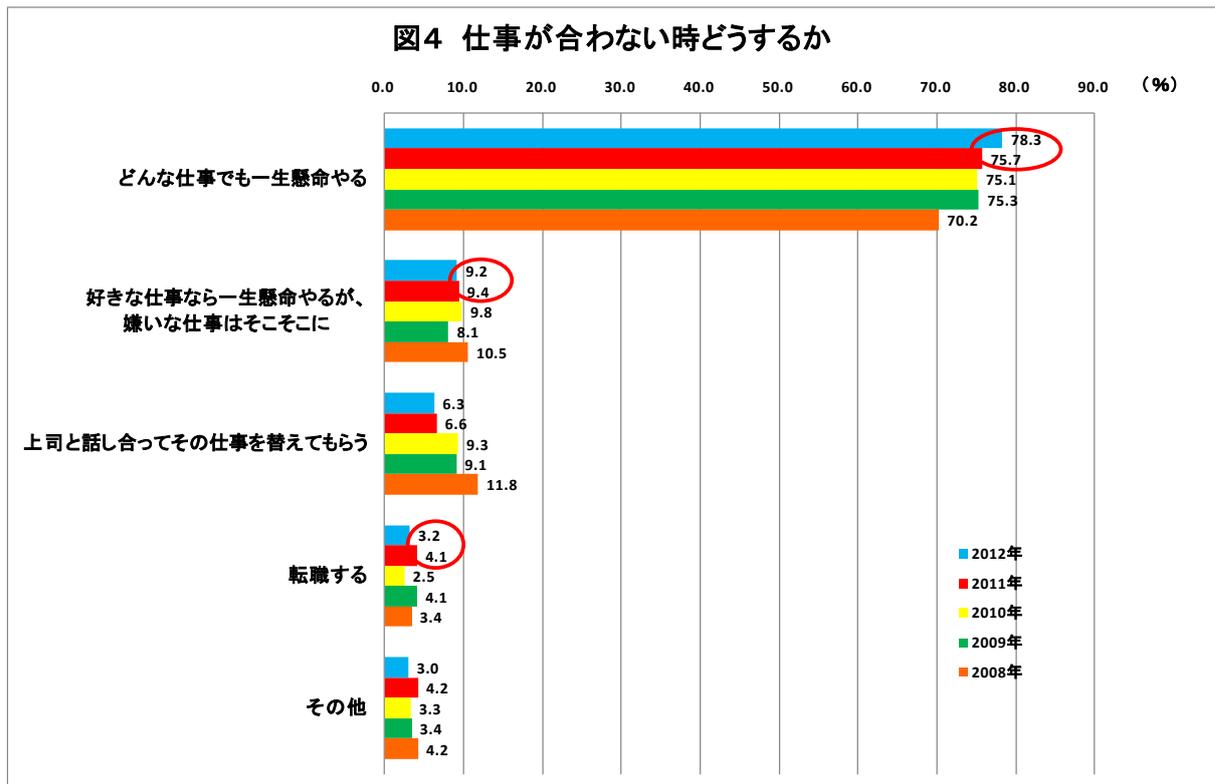
「職場の雰囲気が良いと感じる時」が増加傾向

『あなたはどのような時に働きがいを感じるか』（複数回答）との問いには（図3）、「仕事が面白いと感じる時」が72.1%で一番多く、以下「職場の雰囲気が良いと感じる時」が46.5%、「社会に貢献していると感じる時」が25.7%と続いた。特に「職場の雰囲気が良いと感じる時」は昨年（44.5%）から2.0ポイント増加しており、今年の新入社員が職場内のチームワークを意識する傾向はここにも表れているようだ。



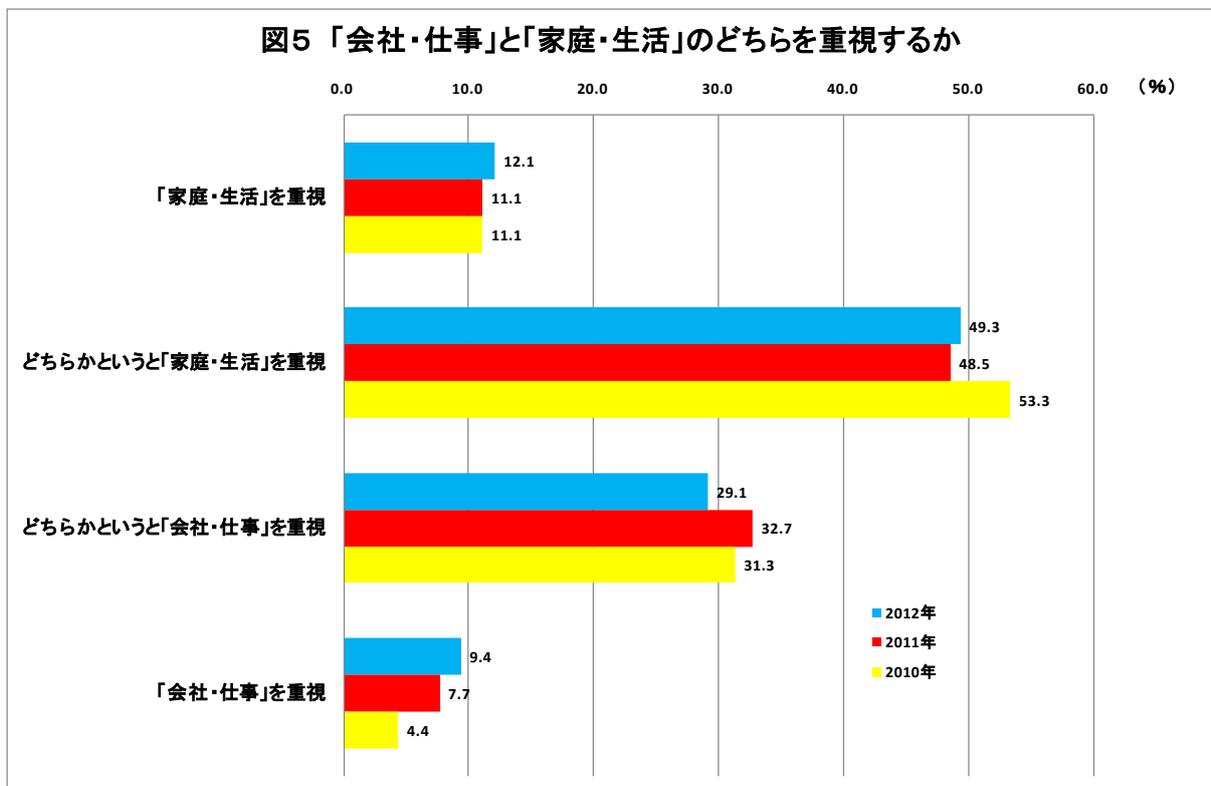
仕事は「どんな仕事も一生懸命に」

『仕事が合わない時どうするか』との問いに対しては（図4）、「どんな仕事でも一生懸命やる」と答えたのが78.3%となり、5年間連続で7割を超えている。続いて、「好きな仕事なら一生懸命やるが、嫌いな仕事はそこそこにする」は9.2%となり、昨年（9.4%）より0.2ポイント低下した。また、「転職する」も3.2%で、昨年（4.1%）よりも0.9ポイント低下した。就職活動が厳しかった影響からか、仕事に対して意欲的な姿勢がここにもあらわれているようだ。



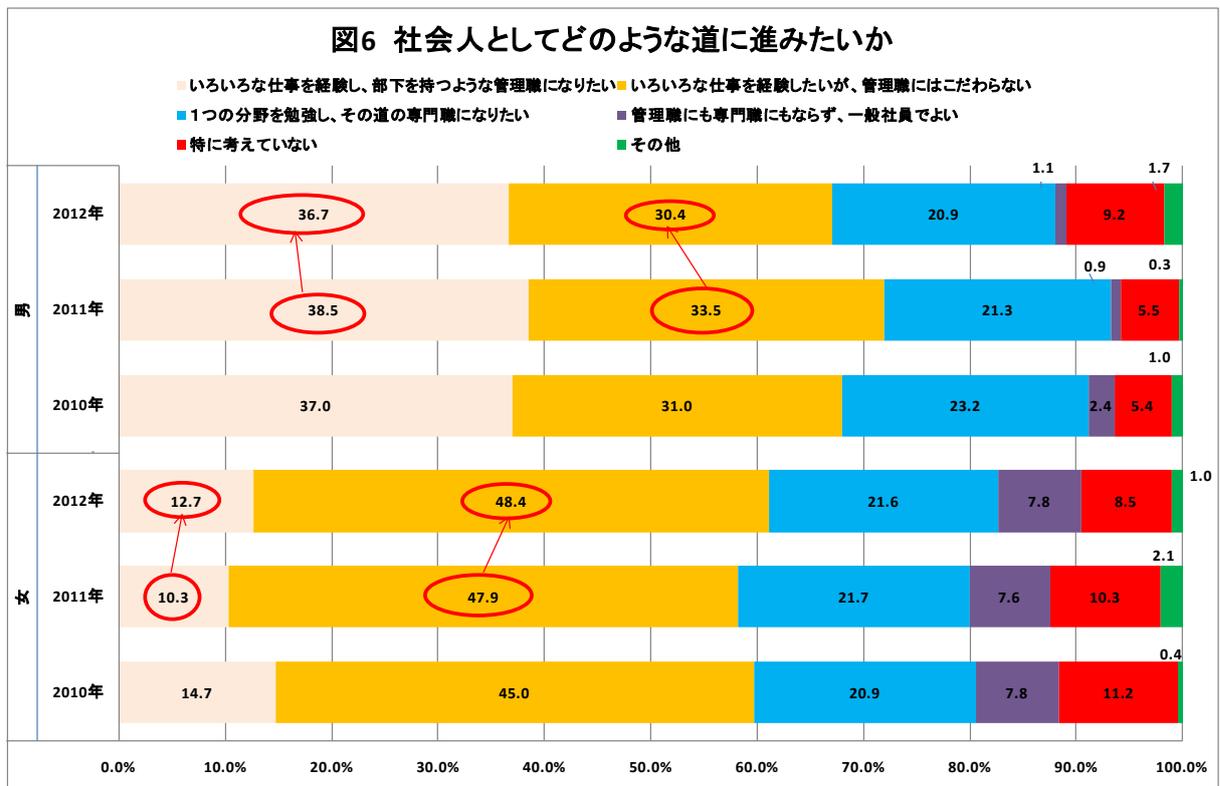
「家庭・生活」を重視するが増加

『「会社・仕事」と「家庭・生活」のどちらを重視するか』との問いには（図5）、「家庭・生活」を重視と回答した人は61.4%（「家庭・生活」を重視（12.1%）とどちらかという「家庭・生活」を重視（49.3%）の合計）で、昨年（59.6%）よりも1.8ポイント増加した。一方、「会社・仕事」を重視と答えた人は38.5%（「会社・仕事」を重視（9.4%）とどちらかという「会社・仕事」を重視（29.1%）の合計）で、昨年（40.4%）より1.9ポイント減少した。わずかではあるが、昨年と異なり「家庭・生活」を重視する人が増加した背景には、やはり東日本大震災の影響により、家族との「絆」を重視する傾向があるようだ。



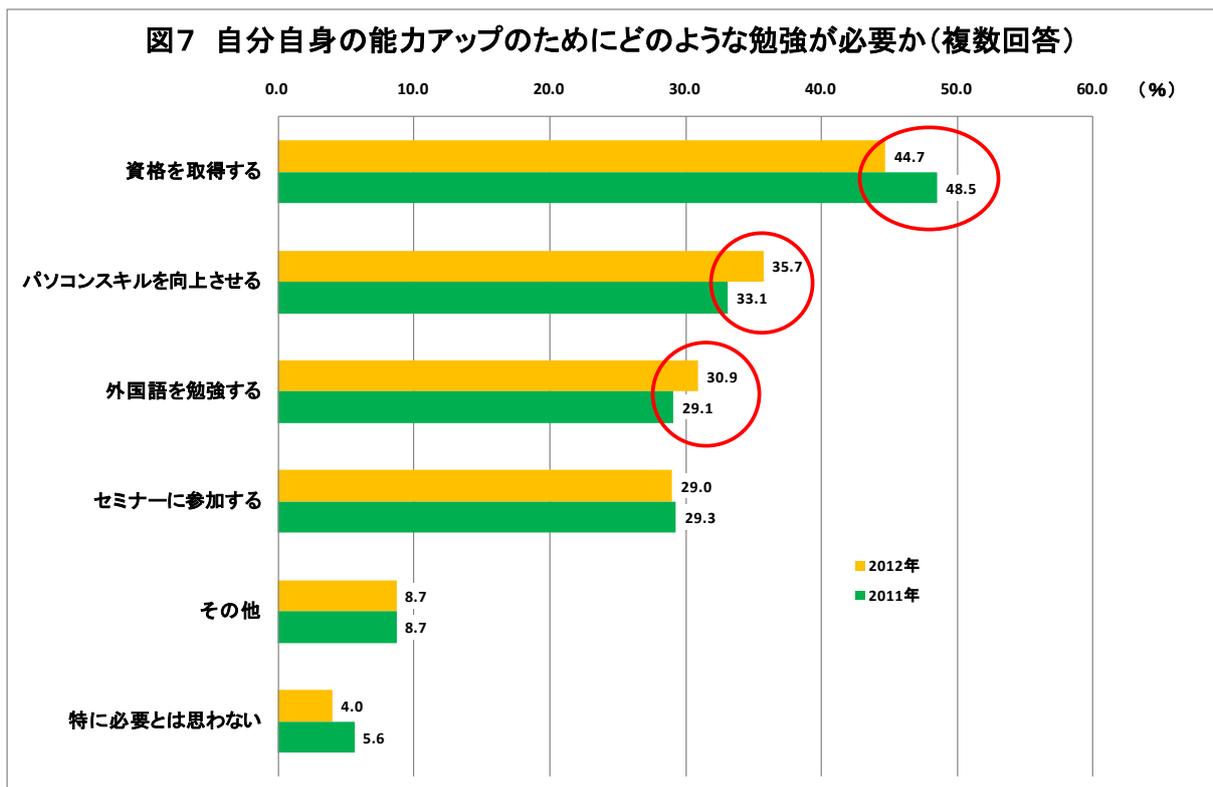
「部下を持つような管理職になりたい」が、女性で増加傾向

『社会人としてどのような道を進みたいか』との問いに対しては（図6）、「いろいろな仕事を経験し、部下を持つような管理職を目指したい」と回答したのは男性36.7%、女性は12.7%となり、昨年に続き男女で大きく差が出る結果となった。しかしながら、男性は38.5%→36.7%と1.8ポイントの減少に転じているのに対し、女性は10.3%→12.7%と2.4ポイント増加する対象的な結果となった。職場での女性の管理職登用も一般的となり、女性新入社員のキャリアアップ思考が強まっているようだ。



「すぐに職場で使用する能力」を必要とする新入社員が増加

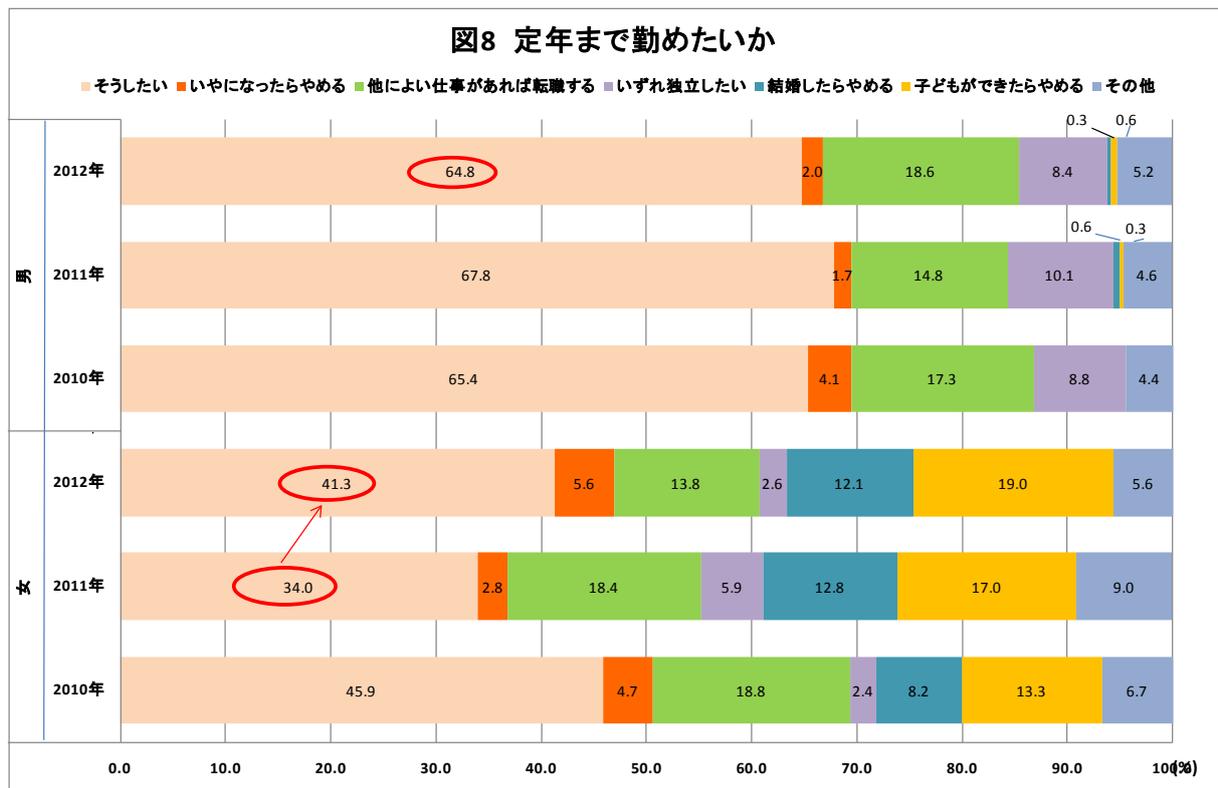
『自分自身の能力アップのためにどのような勉強が必要か』（複数回答）との問いには（図7）、「資格を習得する」が44.7%で最も多く、次いで「パソコンスキルを向上させる」（35.7%）、「外国語を勉強する」（30.9%）と続いた。「資格を習得する」は昨年（48.5%）より3.8ポイント減少したが、「パソコンスキルを向上させる」は昨年（33.1%）より2.6ポイント増加、「外国語を勉強する」は昨年（29.1%）より1.8ポイント増加し、パソコンスキルや外国語といった「すぐに職場で使用する能力」を必要とする新入社員が増加傾向にあるようだ。



「育児と仕事」を両立できる職場環境づくりを

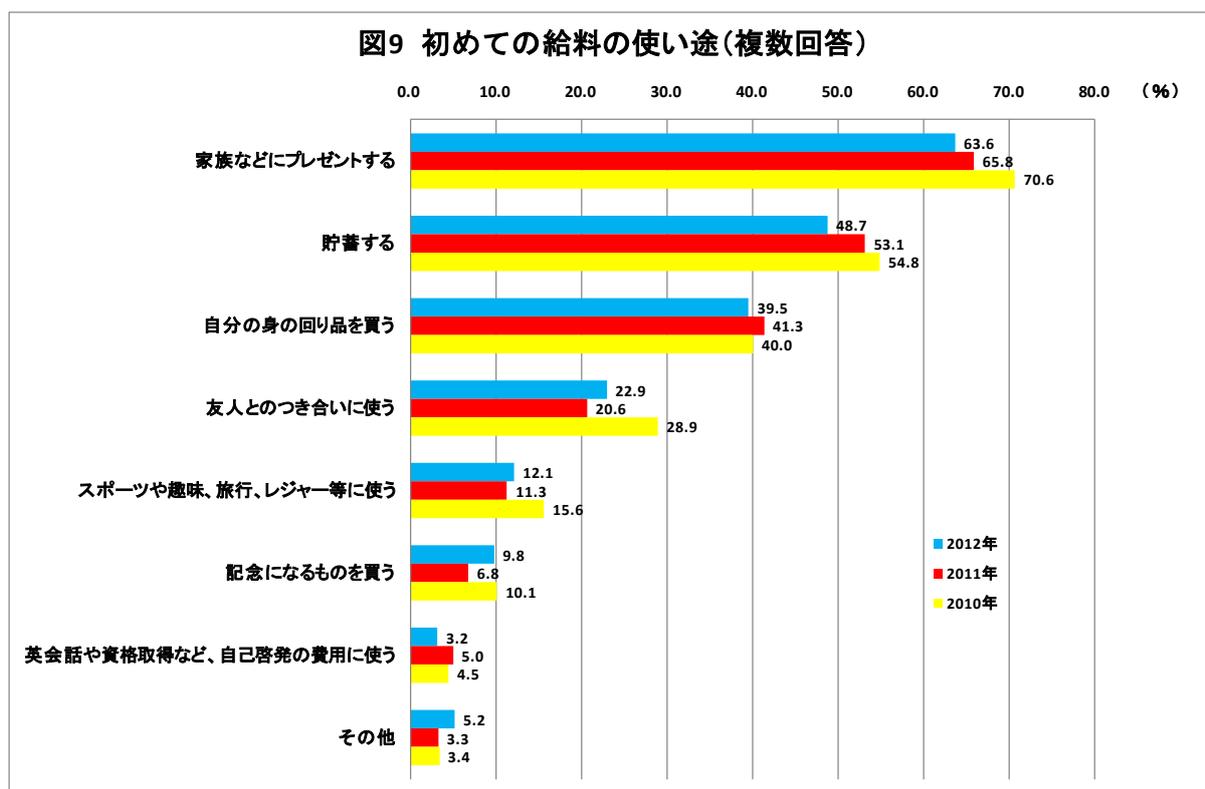
『定年まで勤めたいか』との問いには(図3)、男性64.8%、女性41.3%が「そうしたい」と回答した。特に、女性は昨年の34.0%から41.3%と大きく増加し、昨年よりも男女の差は10.3ポイント縮む結果となった。

定年まで勤めたいという意欲的な女性新入社員が増加しているなか、結婚・出産・育児を経て働き続けられる職場環境づくりが、改めて求められる結果となった。



初めての給料は家族へのプレゼントに使う

『初めての給料の使い途は何か』（複数回答）との問いには（図9）、やはり「家族などにプレゼントする」が63.6%で、昨年（65.8%）よりも2.2ポイント少ないものの依然多かった。また、「貯蓄する」も48.7%で昨年（53.1%）よりも4.4ポイント少ないが、2番目に多い結果となった。初めて貰うお給料はお世話になった人へのプレゼントなどに使いたいという考えは引き続き根強いようだ。



理想の上司は今年も「イチロー」と「天海祐希」、最近話題の人物の名前も

『理想とする上司像を有名人に例えると』の問いには（表）、男性の上司としては、「イチロー」（男 53 人 女 21 人）が7年連続で1位となった。女性の上司でも女優の「天海祐希」（男性 21 人、女性 29 人）が3年連続の1位となった。『その有名人を選んだ理由』では、「イチロー」は、「率先して手本を見せてくれそう」が24.6%で最も多く、次に「頼りになりそう」が17.4%が続いた。「天海祐希」を選んだ理由は、「仕事ができそう」が25.0%で最も多く、「頼りになりそう」が23.9%で2番目に多い回答となった。自分の手本となるような仕事のできる先輩で、困っている時に頼りにできるような上司像を理想としている。

また、男性の2位には「橋下徹（大阪市長）」が、女性の4位には「澤穂希（なでしこ JAPAN）」と最近話題の人物も初めてランクインした。

表 理想とする上司

男性上司	回答数(人)	順位	女性上司	回答数(人)
イチロー	74	1	天海祐希	50
橋下徹	26	2	江角マキコ	31
明石家さんま	17	3	真矢みき	27
所ジョージ	11	4	澤穂希	24
松岡修造	8	5	和田アキ子	15

企業側も新入社員の意識を十分に把握し、仕事への意欲を高めてもらう工夫が必要

厳しい就職戦線を勝ち抜いてきた新入社員は、自分の能力・資格を最大限に生かし、どんな仕事でも一生懸命に取り組むという非常に前向きな意欲をもっている。また、「協調性」に自信がある新入社員が増加傾向にあるのに対し、「責任感」「社交性」に自信のある新入社員は年々減少傾向にあるようだ。「失敗してもいいから責任ある仕事を任せる」「飲み会で先輩の経験談を聞かせる」などという伝統的ともいえる育て方では、なかなか今年の新入社員の能力を向上させるのは難しそうである。企業側も、新入社員の意識を十分に把握し、常に仕事への意欲を高めてもらう工夫や努力が必要である。

㈱しがぎん経済文化センター

上村 彰吾